

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 6 部門第 3 区分

【発行日】平成 24 年 5 月 24 日 (2012.5.24)

【公開番号】特開 2011-48421 (P2011-48421A)

【公開日】平成 23 年 3 月 10 日 (2011.3.10)

【年通号数】公開・登録公報 2011-010

【出願番号】特願 2009-193855 (P2009-193855)

【国際特許分類】

G 0 6 F 3/041 (2006.01)

G 0 6 F 3/042 (2006.01)

【 F I 】

G 0 6 F 3/041 3 8 0 Q

G 0 6 F 3/042 J

【手続補正書】

【提出日】平成 24 年 3 月 29 日 (2012.3.29)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 4 7

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 4 7 】

コンピュータ装置 2 では、受信手段 2 2 が、電子ペン 1 から記入情報（ストローク情報及びペン ID）を受信すると、その記入情報を記憶手段 2 5 に記憶し（ステップ S 2 0 1）、処理手段 2 4 が、その受信した記入情報が解答用紙 4 か発表用操作シート 5 のいずれのものであるかを、図 9 に示す位置座標情報を参照して判断する（ステップ S 2 0 2）。そして、処理手段 2 4 は、電子ペン 1 からの記入情報が解答用紙 4 のものであると認識した場合（ステップ S 2 0 2：解答用紙）、受信したペン ID に対応するユーザが解答用紙 4 に記入したストロークがストローク表示領域 6 0 1 に表示されているか否か、換言すると、受信したペン ID に対応するユーザ別表示ボタン 6 0 3 が選択されているか否かを判定する（ステップ S 2 0 3）。受信したペン ID に対応するユーザのストロークが表示されていると認識した場合（ステップ S 2 0 3：Yes）、処理手段 2 4 は、受信した記入情報に含まれるストローク情報に基づいて、電子ペン 1 で解答用紙 4 に記入されたストロークを描画して、ストローク表示領域 6 0 1 へ表示する処理を行う（ステップ S 2 0 4）。選択されていないと認識した場合（ステップ S 2 0 3：No）、処理手段 2 4 は、処理を終了する。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 4 8

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 4 8 】

一方、ステップ S 2 0 2 で、処理手段 2 4 が、電子ペン 1 からの記入情報が発表用操作シート 5 の処理指示エリアのものであると認識した場合（ステップ S 2 0 2：発表用操作シート）、受信したペン ID に対応するユーザのストロークが表示されているか否か、すなわち、受信した記入情報に含まれるペン ID と共通するペン ID を有して記憶手段 2 5 に記憶されている、解答用紙 4 への記入による記入情報に基づくストロークが表示されているか否かを判定する（ステップ S 2 0 5）。表示されていないと認識した場合（ステップ S 2 0 5：No）、処理手段 2 4 は、受信したペン ID の電子ペン 1 による解答用紙 4

への記入内容を表示するように、ストローク表示領域 601 を即時に切り替える処理を行い（ステップ S206）、図 8 に示す処理指示情報を参照して、ステップ S202 で用紙種別と共に認識した処理指示エリアに対応する処理を、受信したペン ID の電子ペン 1 により解答用紙 4 に記入した内容のストローク再生について実行する（ステップ S207）。また、受信したペン ID に対応するユーザのストロークが表示されていると認識した場合（ステップ S205：Yes）、処理手段 24 は、ステップ S202 で認識した処理指示エリアに対応する処理を実行する（ステップ S207）。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0056

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0056】

そして、処理手段 24 は、記憶手段 25 に記憶された使用関係情報を参照して、受信した記入情報に対応するユーザエリアと用紙種別と使用ユーザとを認識して、その用紙と対になる用紙を特定する。例えば、ユーザ A が発表用操作シート 5 に記入したストロークの記入情報を受信した場合、処理手段 24 は、記入情報より使用ユーザが「ユーザ A」であると認識して、使用関係情報を参照して共通する使用ユーザ「ユーザ A」が関係付けられている解答用紙 4 を特定する。そして、特定した解答用紙 4 に関する記入情報に基づいて、その解答用紙 4 に記入された内容のストロークを、記憶手段 25 に記憶された処理指示情報を参照して、その処理指示エリアに対応する処理を実行しながら、表示手段 26 に表示させる。したがって、ユーザが解答用紙に電子ペン 1 でストロークを形成した後に、発表用操作シート 5 の処理指示エリアに触れると、コンピュータ装置 2 では、その処理指示エリアに対応する動作を再現して、解答用紙 1 に記入されたストロークを、ストローク表示領域 601 に表示することができる。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0059

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0059】

コンピュータ装置 2 では、受信手段 22 が、電子ペン 1 から記入情報（ストローク情報）を受信すると、その記入情報を記憶手段 25 に記憶し（ステップ S401）、処理手段 24 が、その受信した記入情報から、どの解答用紙 4 があるいは発表用操作シート 5 かを判断する（ステップ S402）。このとき、各解答用紙 4、発表用操作シート 5 には、異なる座標領域のユニークなドットパターンが割り当てられて印刷されているので、処理手段 24 は、図 14 に示す使用関係情報を参照して、受信した記入情報から、特定の解答用紙 4 または発表用操作シート 5、ユーザエリア、およびその使用ユーザを認識することができる。そして、処理手段 24 は、電子ペン 1 からの記入情報が解答用紙 4 のものであると認識した場合（ステップ S402：解答用紙）、その使用ユーザによって解答用紙 4 に記入されたストロークがストローク表示領域 601 に表示されているか否か、換言すると、記入情報から特定された使用ユーザに対応するユーザ別表示ボタン 603 が選択されているか否かを判定する（ステップ S403）。認識した使用ユーザによって解答用紙 4 に記入されたストロークが表示されていると認識した場合（ステップ S403：Yes）、処理手段 24 は、受信した記入情報に基づいて、電子ペン 1 で解答用紙 4 に記入されたストロークを、ストローク表示領域 601 へ描画して表示する処理を行う（ステップ S404）。選択されていないと認識した場合（ステップ S403：No）、処理手段 24 は、処理を終了する。